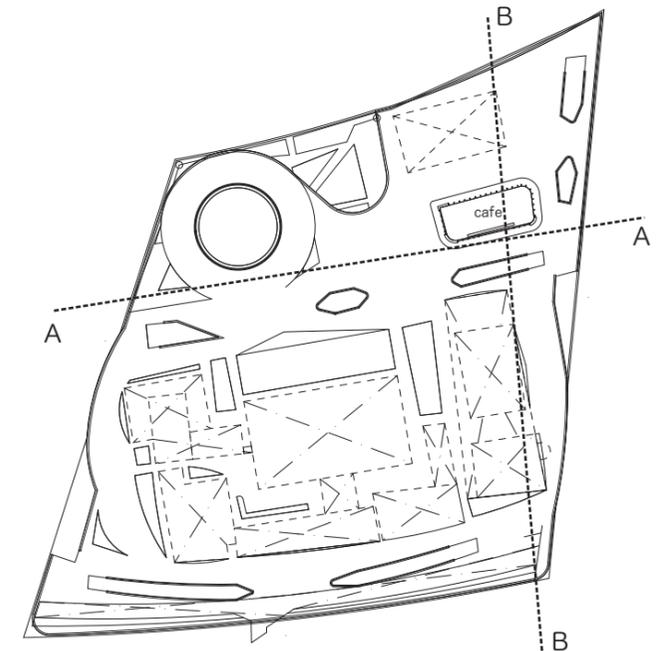


町の交差点

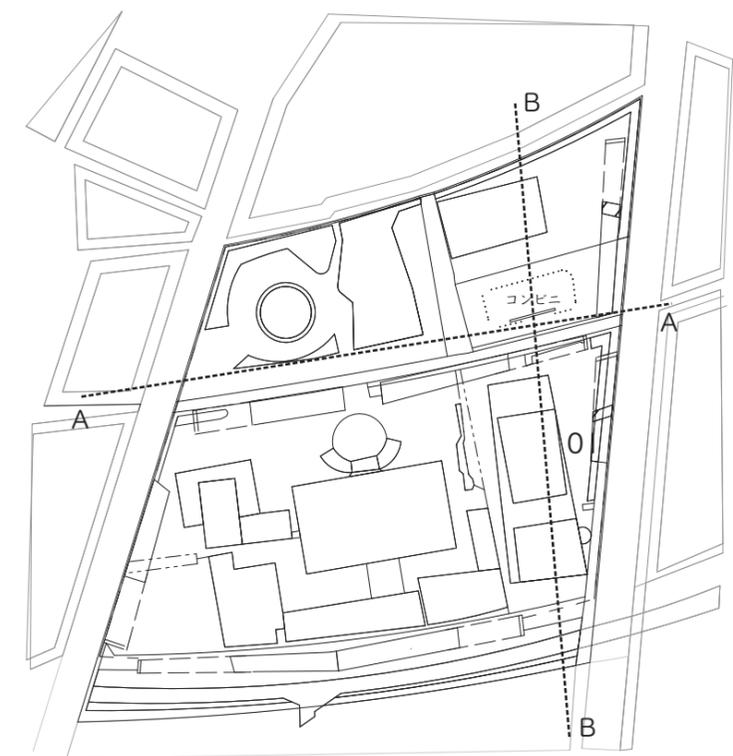
富山県における行政地、県庁は、行政施設として多くの人が利用している。しかし、各行政における仕事の目的の場として空間が構成されており、市民との交わりが軽薄なようにも感じられる。そのため、各施設を一枚のスラブでまとめ、市民の交わりが増える様な大建築空間として再構築した。

・コンセプトの流れ

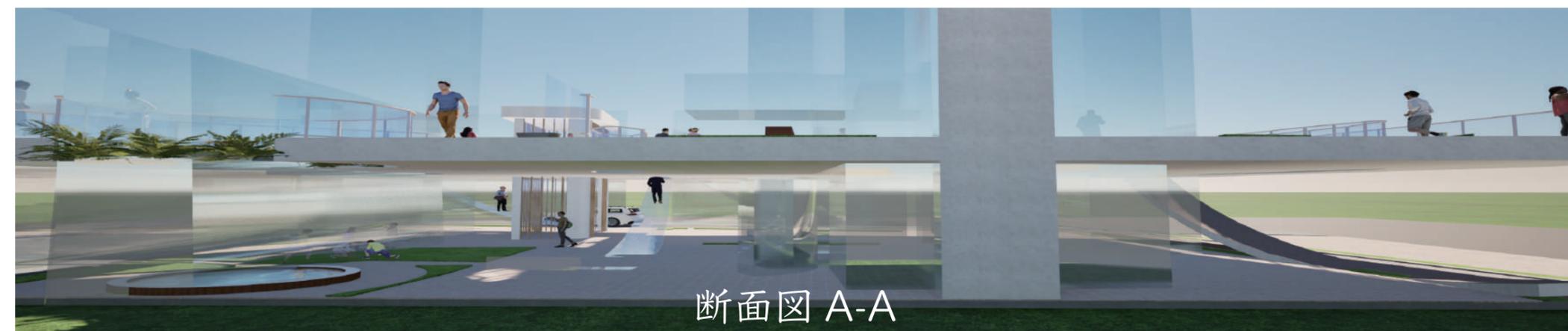
役所に人が寄りつかない
↓
各施設の目的のみ達成されている空間
↓
市民に認知される・関わること
のできる空間を創造する。



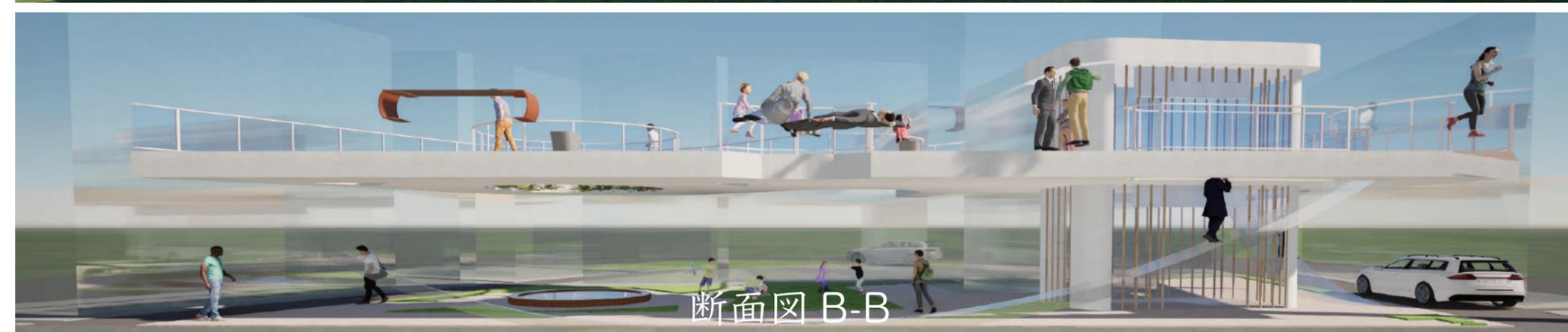
2階平面図



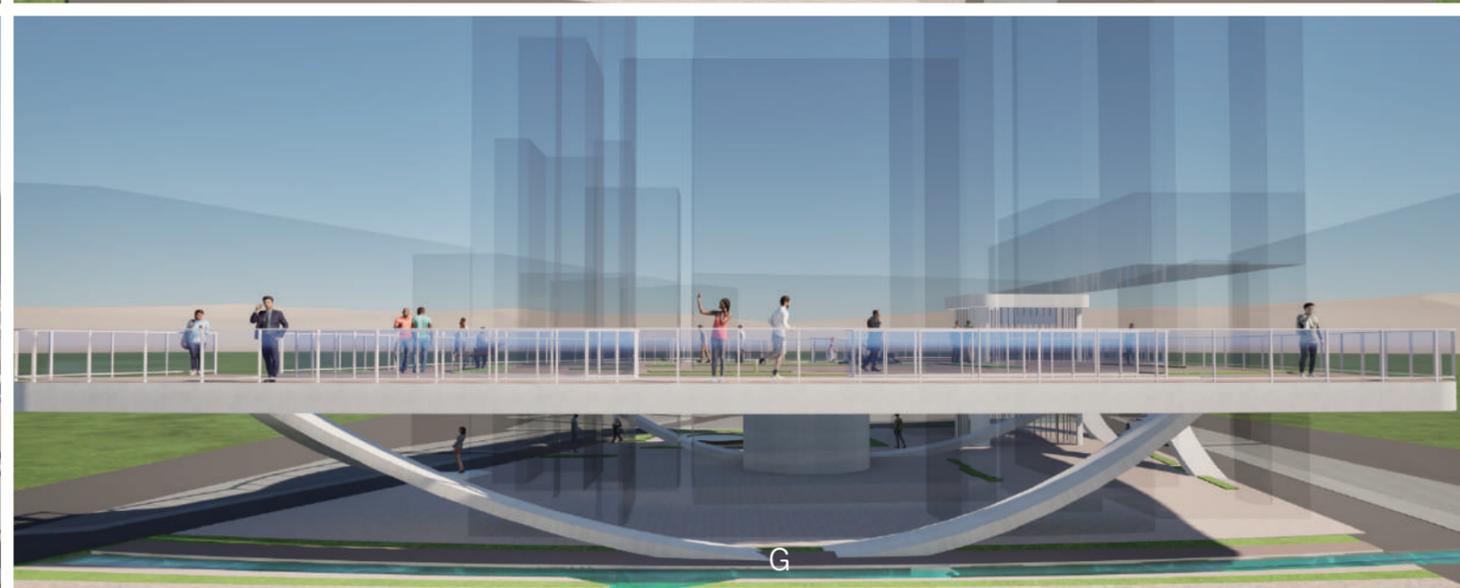
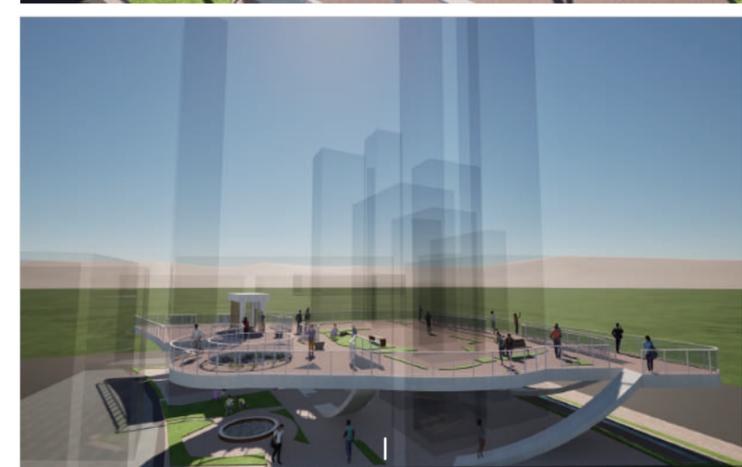
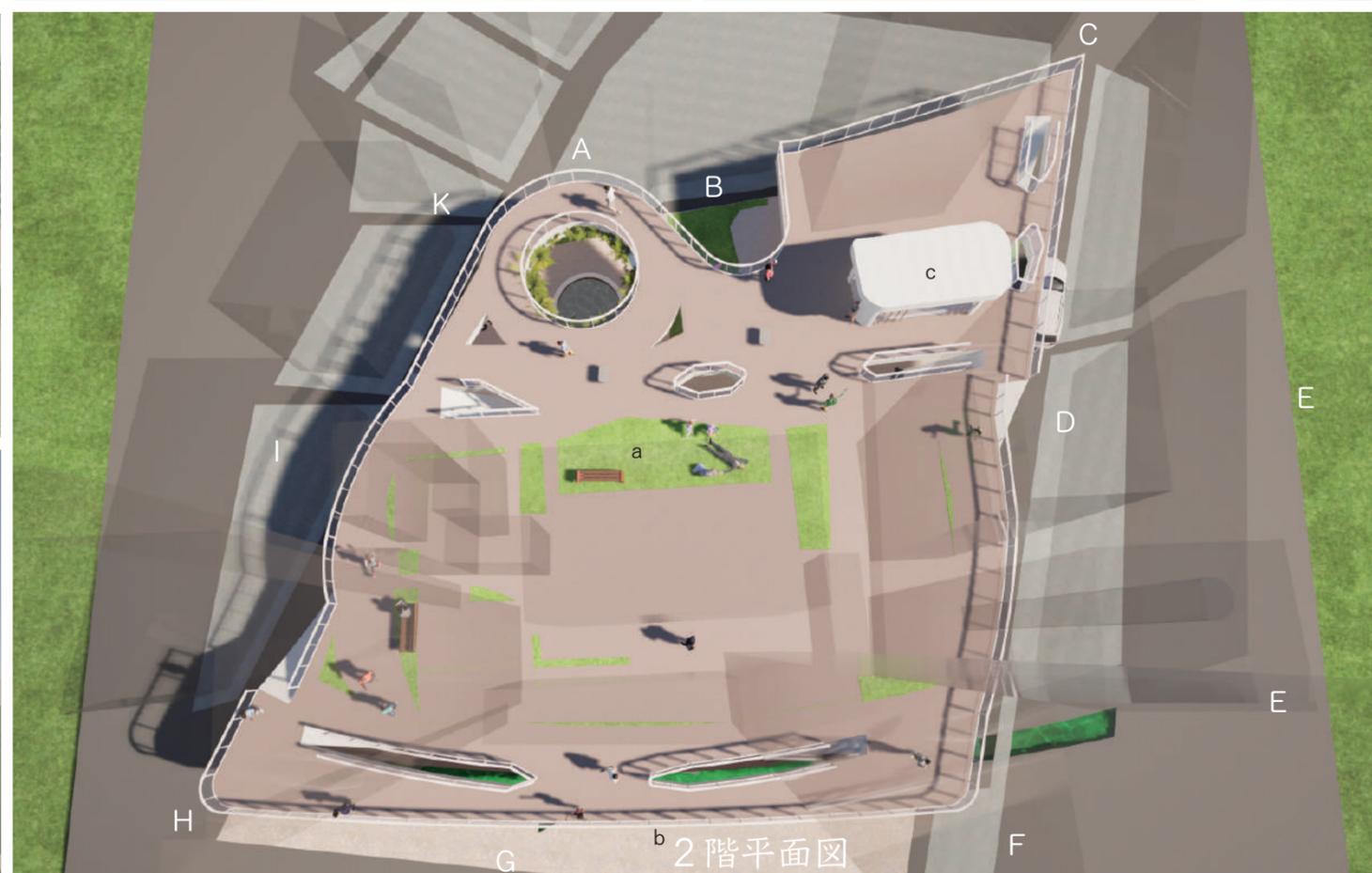
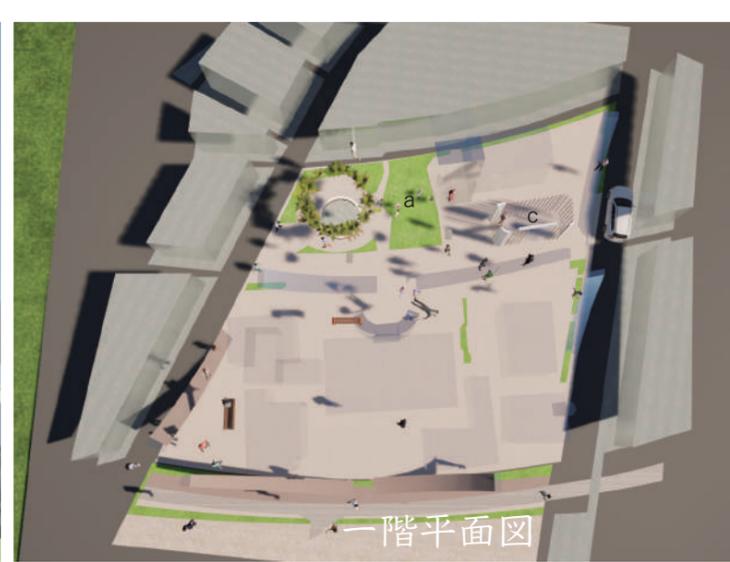
1階平面図



断面図 A-A

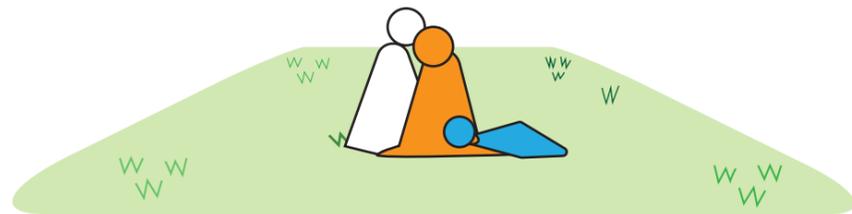


断面図 B-B



憩いと楽しみ・賑わい・求心力の空間は、県庁周辺エリアの3つの「ありたい姿」に成って行くための空間である。

・憩いと愉み



寛ぎの空間 (a)

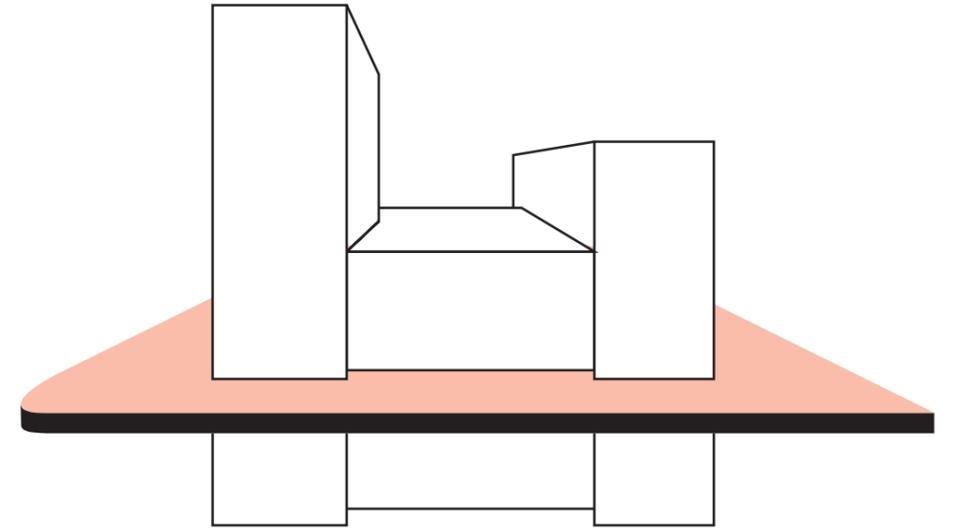
・賑わい



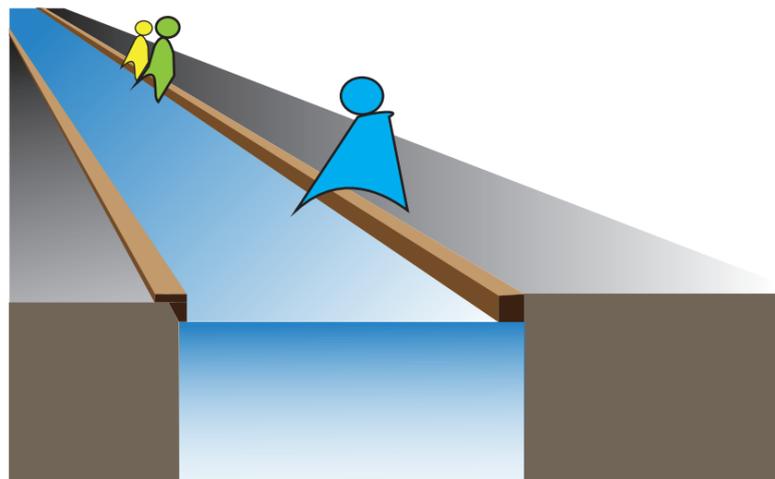
1 km

活動的動線

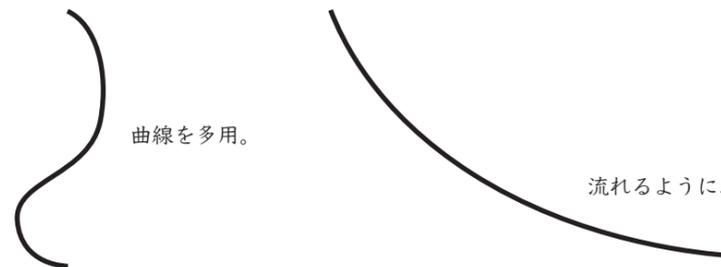
・求心力と発信力



一つの纏りの街化

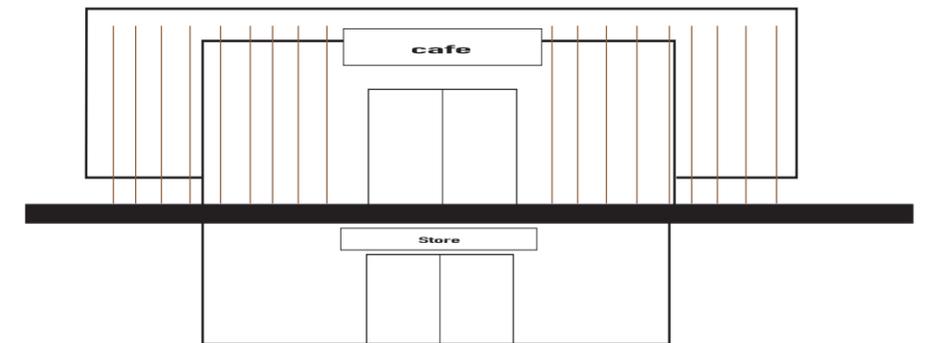


自然との触れ合い (b)



ランニング・ウォーキング・犬の散歩等
市民にとっての活動的関わりを増やす。

軽いドロイング



利便性の高上 (c)